

平成5年(1993年)3月12日(金曜日)

心筋梗塞に似た 痛みの異型狭心症

夜明け前の決まった時刻に胸が締めつけられるような痛みを感じる。一過性の痛みだが本人のショックは大きい。この発作は「異型狭心症」と呼ばれるもののためだ。原因は冠動脈のけいれんだが。

心電図の波形が異型 原因は冠動脈のけいれん

狭心症というのは心臓を養う冠動脈の血流が一時的にストップするため生じる発作だ。一時的に夜明け前の決まった時刻に胸が締めつけられるような痛みを感じる



にストップしたのだからまだよく、これが完全に流れなくなるまで、心筋梗塞(こうそく)となる。心電図の波形が他の狭心症と異なる

さて、狭心症には労作性狭心症と安静時狭心症がある。異型狭心症というのとは安静時狭心症のひとつかだ。なぜ、異型狭心症と呼ばれるのかという

中央部がギューッと締めつけられるような痛みを感じる。下アゴからみぞおちまで痛みが走ったりする。それも早朝時に多い。

痛みは狭心症の中でも強い方

この痛みは狭心症の中でも強い方だ。狭心症というよりは心筋梗塞の発作の痛みに近い。そういえば、心電図での所見は前に述べた通り、他の狭心症と異なっているが、心筋梗塞の所見に似ている。

ただし、心筋梗塞と違う点は発作が一過性なことだ。まず30分もすれば痛みは消えて元通りになる。

その原因だが、狭心症は冠動脈の内壁にコレステロールが沈着、血管内が細くなることにより、そこにちょっとしたきっかけが加わると生じてしまう。X線撮影でみると冠動脈の狭窄(きょうさく)がわかる。

ところが、異型狭心症はこの狭窄がなくとも発作が起る。交感神経末端から分泌される神経伝達物質が、冠動脈を収縮させるためというの

現在の考え方は、いつてもみれば冠動脈の局所的なけいれんである。早朝は冠動脈の緊張度が高いので、けいれんも生じやすいといわれている。

狭心症の大敵はストレス

治療は薬物療法だ。発作を予防する薬と、起きた発作を抑える薬の併用が一般的だ。

予防にはニトログリセリンを含んだシール状の貼布薬を用いたりする。発作に対してはニトログリセリンの舌下錠や口内スプレーが効果を発揮する。

しかし、狭心症の大敵はストレスだ。これがあるやうに冠動脈に悪く働きかけてしまう。といってストレスをなくすことは不可能。もつと心を大きく持って「ライライしないよ」に心掛けることだ。それとタバコはあめめこと。こころして、発作を予防するのが一番だ。